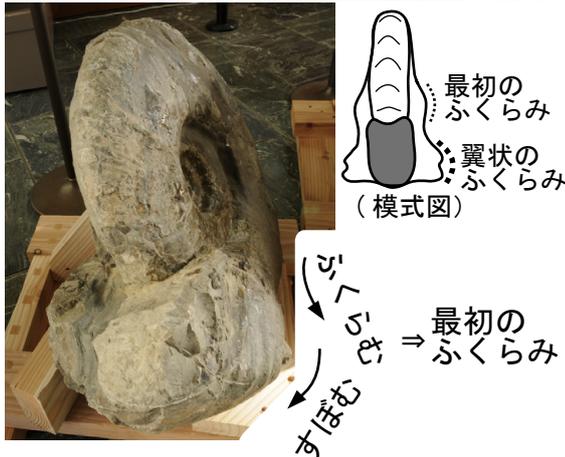


クビナガリュウ
「ホッピー」

展示資料を追加しました

大型の白亜紀アンモナイト プテロプゾシア (*Pteropuzosia kawashitai*)

岡島孝義氏（三笠市）寄贈



プテロプゾシアは、北海道の白亜紀チューロニアン期（おそらく前期あるいは中期チューロニアン期、約9,000万年前）から産する大型のアンモナイトです。このアンモナイトの最も目を引く特徴は、成長の後期に殻が横にいったんふくらみ（最初のかくらみ）、さらにその後大きな翼状のかくらみをつくることです。

寄贈していただいた小平町産の標本は、殻の直径が約50cmで、圧密などによる変形を受けておらず、最初のかくらみまでの部分が完全に保存されている点で素晴らしい標本です。

そのまま展示できる素晴らしい標本を寄贈していただいた岡島氏に感謝します。

白亜紀木材化石 穂別地区稲里で採集



採集時

発見済みの白亜紀木材化石（約7,000万年前のもの）を、昨年10月30日に、博物館職員4名で採集してきました。60kgほどの重量があると思われる標本を、標本採集用に改造した大型のソリにのせて、沢の源流に近い場所から回収してきました。車にのせるまでの間に、小さな砂防ダムが2つあり、標本とソリを落とさない様子を気をつけながら必死で回収しました。ソリは劣化していたこともあって壊れましたが、無事に回収できました。重くて大変でした。

新第三紀クジラ化石 門別（日高町）産

門別図書館郷土資料館寄贈



2005年に発見・採集され、穂別町立博物館でクリーニングされた標本を展示しました。

2つのブロックは同じ岩石を分離したものです。標本は、頸椎（首の骨）から胸椎（背骨）が連続して並び、その周辺に肋骨が散在しています（左写真上）。右前肢（ヒレ）の付け根あたりの骨も元の位置関係のまま化石になっていて（左写真下）、展示解説と現生のミンククジラの骨格を見比べると、そのことがよく分かります。頭骨が発見されなかったため、詳しい種類までは分からないかもしれませんが、全身のうち3～4割程度が保存されている立派な標本です。転石なので詳しいことは不明ですが、産出した場所などから新第三紀の中新世～鮮新世（約2,300万年～180万年前）のものだと思われます。

標本を寄贈していただいた門別図書館郷土資料館に感謝します。



（普及員 西村智弘）

【アクセス】



【利用案内】

開館時間 9:30~17:00 (最終入館 16:30)
 入館料 個人 / 小～高校生 100円
 大人 300円
 団体 / 小～高校生 50円
 大人 200円

※団体は10人以上 ※小学生未満は無料

【休館日】

2013年2月
 4(月) 12(火) 13(水)
 18(月) 25(月)
 2013年3月
 4(月) 11(月) 18(月)
 21(木) 25(月)